

天平二年庚午の冬十二月、大宰帥大伴 卿、

京に向かひて道に上る時に作る歌五首

四四六番

我妹子が 見し鞆の浦の むろの木は 常世にあ
れど 見し人そなき

四四七番

鞆の浦の 磯のむろの木 見むごとに 相見し妹
は 忘れえめやも

四四八番

磯の上に 根延ふむろの木 見し人を いづらと
問はば 語り告げむか

四四九番

妹と来し 敏馬の崎を 帰るさに ひとりし見れ
ば 涙ぐましも

四五〇番

行くさには 二人我が見し この崎を ひとり過
ぐれば 心悲しも